（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | おれんじはつくら | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年　4月　6日 | ～ | 2026年　4月　17日 | |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 14 | （回答者数） | 9 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年　4月　6日 | ～ | 2026年　4月　17日 | |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 4 | （回答者数） | 3 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年5月　1日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・重度心身障害児に対応できる支援体制にあり、日常的な医療的ケアが安全に実施されています。 | バイタルチェックや吸引・注入等の手順を統一し、事故防止に努めています。バイタルで平常時との変化から体調の不良の早期発見に努めています。 | 医療的ケアに関する定期的な研修の実施をして行きたいです。 |
| 2 | 小人数対応により、個別性の高い支援が出来ます | 利用者様ごとのサインや体調管理（体調の変化）を職員間で情報共有し対応できるようにしています。 | ヒヤリハットの蓄積と分析により再発を防いでいきたいです。 |
| 3 | 意思疎通が難しい利用者様に対しても、表情反応、バイタルなどから状態を把握することができます。 | 表情や四肢の反応、発声の有無から変化を観察し、個々の反応パターンとして職員が共通理解しています。 | 災害時、停電などの対応訓練を充実させていきたいです。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 重度の障がい、意思疎通の難しい利用者様が多く、ニーズの把握が本当に本人の意向に沿ったものかの判断が難しい事があります。 | 意思疎通の難しい利用者様のコミュニケーション手段の模索 | 利用者ごとのコミュニケーション方法の確立や職員間の対応方法の共有と記録 |
| 2 | 医療ケアの必要な利用者様もおり、車いすやバギーなどの利用もあって、活動の幅が制限されることがあります。 | 重症心身障害児のリスク（急変など） | 外部研修や内部研修による重症心身障害児の意志理解のスキルの向上 |
| 3 | 導尿など同性介護が難しい場合があります。 | 利用者と職員配置におけるマッチングの難しさ | シフトの調整や看護師と連携した事前リスクの作成 |